令和7年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学研究科 生活環境学専攻　修士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力		2．“生きること”につながる専門性		3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識				姿勢			行動		
					1-1	1-2	2-1	2-2	3	4	5	6	7	8
25MHES2910	特　別　研　究	1-2	生活環境学の分野における広い視野に立って研究を進める能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養い、文化の進展に寄与することを目的とし、充実した修士論文を作成することを目指す。	主体的な研究遂行能力を獲得し、充実した修士論文を作成することを目標とする。							◎	◎		◎
25MHES1010	生活文化情報学特別演習	1	生活環境学の分野における広い視野に立って研究を進める能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養い、文化の進展に寄与することを目的とし、充実した修士論文を作成することを目指す。	文献調査・フィールドワーク・モノの観察などのノウハウを修得するとともに、多様な文化的価値を理解し認め合う人間性を身につける。				○		◎	◎	◎	◎	
25MHES1020	生活環境学特別演習	1	生活環境学に関する研究方法論や最新のトピックスについて学生の考察を深化させることを目的とする。	主体的な研究遂行能力を獲得することを目標とする。		○				◎	◎	◎	◎	
25MHES2110	生活文化学特論	2	生活文化とは、文字通り“way of life”であり、身近な慣習や儀礼、流行やファッションなどが当てはまる。本科目では、生活文化学の文献に即して学びつつ、基礎概念についての理解をはかる。	生活文化に関する基本的な知識を身につけた上で、発展的な考現学フィールドワークをおこなって、多様な生活文化の現状を広く把握し、生活文化のより深い理解を目指す。				◎		◎		○	◎	○
25MHES2120	メディア情報学特論	2	「メディア」「情報」をキーワードに、学術研究の蓄積を概観することを目的とする。自らが立脚する学問分野についての理解を深め、自らの研究におけるトピックとフィールドの検討に資することを目的とする。	当該分野の基礎的文献についての理解を深め、先行研究の整理、検討を行うことを目標とする。				◎		◎		○	◎	○
25MHES1210	生活美学特論	1	美の概念の変遷を古今東西を通じて展望し、暮しの美が生活の質を示す道標（みちしるべ）として機能していることを確認する。	学生は、双方向の講義を通じて、生活の中で体験するさまざまな美を、古今東西のテキスト（文章）とモニュメント・コンポジション（構築物・作品）を通じて分析し、分類する。				◎		◎		○	◎	○
25MHES2220	環境芸術特論	2	近年人間をとりまく自然や生活環境に対する新しい認識が芽生え、環境芸術というジャンルを生み出している。実は古代にも類似のモニュメントは散見される。環境芸術の代表的な事例を分析し、源流を探り、かつ未来を展望する。	学生はアート・モニュメントを通じて環境を美化するプロジェクトを鑑賞し、制作意図の把握に挑戦し、独自の解釈を提案する。				◎		◎		○	◎	○
25MHES1410	生活情報処理特論	1	人間の生活は、人間の知覚や知能を通して得られているさまざまな情報で支えられている。どのような情報がどのようにして得られているかを考究する。	到達目標は、統計心理学と色彩画像処理およびコンピュータ・グラフィックスに関するスキルを身につけ活用力を獲得すること。		◎				◎		○	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力		2．“生きること”につながる専門性		3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識				姿勢			行動		
					1-1	1-2	2-1	2-2	3	4	5	6	7	8
25MHES1420	生活情報処理演習	1	視覚的な情報処理をより深く理解し、実用的な情報抽出システムを操作し演習する。	到達目標は、統計心理学と色彩画像処理およびコンピュータ・グラフィックスに関するスキルを身につけ応用力を獲得すること。		◎				◎		○	◎	
25MHES1430	社会情報学特論	1	社会現象の考察と研究を行い、個々の現象を数理システムとして理解することを目的とする。	社会現象を、情報理論や確率をもとにした数値的システムとして理解でき、そのメカニズムを数量的に論じることができる。		◎				◎		○	◎	
25MHES2440	情報数学特論	2	本科目では、コンピュータの仕組みを理解するための構造に関わる数学や、コンピュータを応用して、視覚化や問題を解決するための様々な数学的手法を紹介し学習する。また、実際にプログラムを動かして実用性を確認する。	システム構築の基礎やデータを視覚化するための理論および技術を身につけることを目指す。		◎				◎		○	◎	
25MHES1450	経営情報システム特論	1	近年の企業活動は複雑化するITへの依存度をますます高めているが、同時に企業統治面等で様々な問題を引き起こしている。そこで、この科目では、企業の経営戦略に適合したIT技術を導入し、その技術を経営活動に活用し効果を挙げるために、必要となる組織・体制、構築すべきガバナンスの仕組み等について総合的に学ぶことを目的とする。	企業経営という観点から、下記の点について深く考究し、IT活用の問題を解決し、ITを戦略的に利用する上で必要となる豊かな知見と構想力を身につける。 ・ITの戦略的有効性、経営への影響力、惹起される問題を理解し、解決策を探る。 ・ITガバナンスの現状と課題を理解し、ガバナンスのあるべき姿を探る。 ・企業経営にとって望ましい情報システムのあり方を考える。		◎				◎		○	◎	
25MHES1230	服飾美学特論	1	服装における美的表現および記号や象徴のあり方を、歴史や文化のなかの服装現象に注目して追求し、服装の本質を美学的に理解する。同時に服飾美学・服飾文化研究の基本的な視点や方法を修得する。	服飾美学の方法を理解し、その方法によって資料やフィールド調査を実施し、レポートにまとめることができるようにする。				◎		◎		○	◎	
25MHES1610	生活材料学特論	1	家庭用品や生活関連の材料について、その構造、性質、利用、管理と保存までのプロセスを理解することを目的とする。	関連する学術論文の読解、修士論文作成のための基礎的能力と応用的能力を獲得することを目標とする。	◎					◎		○	◎	
25MHES2620	材料保存学特論	2	生活の中の材料の寿命は永遠ではなく、いつかは機能低下、劣化、分解、崩壊といった経過をたどる。しかし、これを可能な限り保持・保存するにはどのような工夫が必要かを科学的見地から理解することを目的とする。	関連分野の課題解決のため、分析力や応用力を身につけることを目標とする。	◎					◎		○	◎	
25MHES1630	材料加工学演習	1	衣と住に用いられる材料の中から、繊維をとりあげ、演習を通じて、その加工（色をつける加工である染色や、特別な機能を付与するための加工）に関する理解を深めることを目的とする。	衣と住に用いられる材料の中から、繊維をとりあげ、演習を通じて、その加工（色をつける加工である染色や、特別な機能を付与するための加工）に関する理解を深めるとともに、その意味に関する価値判断能力獲得を目標とする。	◎					◎		○	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力		2．“生きること”につながる専門性		3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識				姿勢			行動		
					1-1	1-2	2-1	2-2	3	4	5	6	7	8
25MHES2640	機能発現学特論	2	生活環境の快適性の向上のため、最近いろいろな機能性材料が開発され生活の場で利用が進んでいる。これらの機能性材料の創製の歴史と機能の発現の原理について習得することを目的とする。	修士論文作成へ向け、新しい発想や応用ができるようになることを目標とする。	◎					◎		○	◎	
25MHES1710	空間デザインⅠ	1	生活環境の創造にとって重要な建築・都市空間のデザインを様々な視点から読み解きその手法を習得する。	建築、都市をデザインという視点から読み解くことから出発し、様々な社会現象の背景にある原理を探求する能力を高めることを目標とする。	◎					◎		○	◎	
25MHES1720	空間デザインⅡ	1	地球環境の持続可能性に資することができる建築デザインの手法を学ぶ。	建築のデザインと一体になったサスティナブルな環境調整手法についての知識の一端を習得する。	◎					◎		○	◎	
25MHES1730	空間デザイン手法	1	身のまわりの空間から都市空間までを連続した空間として理解し、デザインするために必要な知識を修得し思考力を養う。	空間デザインの基本的な理論と手法を理解したうえで、豊かな空間デザインに向けて適切な視点と手法からアプローチできる能力を修得する。	◎					◎		○	◎	
25MHES1740	空間デザイン設計Ⅰ	1	建築・地域の設計や再生計画について理解し、考察できる能力を養う。	学生が、身近な建築、地域の設計や再生計画について考え、提案できるレベルの目標を設定する。	◎					◎		○	◎	
25MHES1750	空間デザイン設計Ⅱ	1	サスティナブルな建築デザインの手法を、設計に応用する。	空間デザインⅡで学ぶサスティナブルな建築デザインの手法を具体的建築に応用する能力を養う。	◎					◎		○	◎	
25MHES1760	地域空間デザイン	1	都市および地域空間デザインの実務および論理の専門的知識を習得する。	具体的な場所について、自ら計画提案できる知識と技術を得ることを目標とする。			◎			◎		○	◎	
25MHES1770	地域空間デザイン設計	1	様々な歴史的背景をもつ都市や、機能的な役割の異なる地域などを比較考察していくなかで、それぞれの地域における地域固有の地域資源や課題を見つけだし、それらの活用や問題解決の方策を導きだしていく政策立案能力を高めていくための演習を行う。	地域の多様性を理解したうえでのデザイン方法を習得する。	◎					◎		○	◎	
25MHES1520	環境計画技術	1	生活環境における環境工学的要因の制御法を知り、快適性のあり方を幅広く考察できる力を培う。	生活環境を工学的手法で捉え、客観的指標に基づいて科学的な視点で論じる力を習得することを目標とする。	◎					◎		○	◎	
25MHES2510	環境科学演習	2	調査研究によって得られたデータを統計処理することや、そのために必要な研究計画を立案する能力を身につける。	生活環境中の現象を定量的に把握し、現象の背景にあるメカニズムをモデルとして表現することができるようになることを目標とする。	◎					◎		○	◎	
25MHES2310	環境行動学特論	2	人々の日常生活とそれが展開している場所の形成と維持・更新に必要な知識・方法・実践について理解を深め、人間と環境とのよりよい関係を探求することがこの科目の目的である。	人間の行動からの視点のみ、あるいは、物的環境からの視点からのみ物事を考察するのではなく、人間と環境との相互の関係性に着目して、分析・考察できるようになることを目標とする。			◎			◎		○	◎	○
25MHES2780	生活環境学特別講義	2	生活と空間の関係を、地域、都市、建築、住宅など、様々な尺度から考察する方法を修得する。	生活環境学における生活と空間についての関係をより深く理解し、議論を通じて論理的にレポートにまとめる。			◎			◎		○	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	専攻（課程別）ディプロマ・ポリシーの分類（項目）									
					◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ／ ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1．多様化・複雑化する社会を理解する力		2．“生きること”につながる専門性		3．自他を尊重する姿勢	4．失敗を恐れず挑戦する姿勢	5．逆境や困難に対応するしなやかな姿勢	6．論理的に考え伝える力	7．新たな価値を創造する力	8．多様な人々と協働する力
					知識				姿勢			行動		
					1-1	1-2	2-1	2-2	3	4	5	6	7	8
25MHES1810	建 築 設 計 実 務	1	実際に建築設計の実務を学内で体験しながら、生きた知識、技術等を訓練し習得する。	講義・演習で学んだ内容を活用しつつ、企画設計や基本設計・実施設計・工事監理の内容や流れ、施主、役所、設計や工事の関連部署との打ち合わせや調整等の実態を理解する。	◎					◎	◎	○	◎	
25MHES1820	設計・工事監理実務実習Ⅰ	1	本研究科と協定を結んだ建築設計事務所において実際に実務を体験しながら、生きた知識、技術等を身につける。	講義・演習で学んだ内容を活用しつつ、設計・工事監理実務の内容や流れ、施主、役所、設計や工事の関連部署との打ち合わせや調整等の実態を理解する。	◎					◎	◎	○	◎	
25MHES1830	設計・工事監理実務実習Ⅱ	1	本研究科と協定を結んだ建築設計事務所において実際に実務を体験しながら、生きた知識、技術等を身につける。	講義・演習で学んだ内容を活用しつつ、設計・工事監理実務の内容や流れ、施主、役所、設計や工事の関連部署との打ち合わせや調整等の実態を理解する。	◎					◎	◎	○	◎	